

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070100534
法人名	有限会社 シライシップ
事業所名	グループホームシライシップ
所在地	福岡県北九州市門司区柳町一丁目11番1号
自己評価作成日	平成23年12月7日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年12月26日	評価結果確定日	平成24年2月21日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>グループホームシライシップは、平成23年4月に新築移転しました。 「心配り・目配り・気配り・公平平等」を理念に掲げています。 ご利用者の個々の生活を重視しながら、残された能力を最大限に活用し、普段の家庭生活に近い暮らしができるよう援助させていただいています。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>昨年4月、開設して10年目を迎える節目に、これまでの民家改造型のホームから、近隣の現在地に移転されており、昔ながらの商店街や市場、スーパーが立ち並ぶ住宅街の一角に、新築の瀟洒な「シライシップ」は位置している。住み替えの不安も、日常の細やかな配慮と寄り添う支援により、混乱もなく落ち着いている状況があり、管理者、職員は、入居者や家族との対話を重視し、丁寧に記録に残すことで共有を図りながら、理念とする「心配り・目配り・心配り」の実践に取り組んでいる。また、今年度は個人希望表を作成し、一層きめ細やかな日々のかかわりとなるよう取り組んでいる。入居者の方々の思いに向き合い、大切に受け止めようとする管理者、職員の思いは、様々な取り組みや実際の支援の場面からも伺うことが出来、「役割」や「楽しみ」、「居場所」を大切にしたい暮らしの営みを感じることが出来る事業所である。</p>
---

## . サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
<b>理念に基づく運営</b>				
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>「気配り、目配り、心くばり」を基本理念に掲げ、地域福祉の核となるような、施設づくりをめざしている。</p>	<p>毎朝の体操前の引継ぎ時に、理念を唱和している。地域の中での暮らしの継続に向けて、役割や居場所づくり、楽しみごと等を介護計画の中にも示しながら、個別の支援が行われている。</p>
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>日々の散歩や買物等の際、あいさつを行うことにより、お互い顔なじみの関係となり、親交を深めさせていただいている。</p>	<p>町内会に加入し、役割も担いながら、地域の一員として活動している。周囲には、商店街や市場、スーパー等があり、日常的に利用しながら、顔なじみの関係となっている。昨年、9年間居を構えた民家改造型のホームから、現在の場所へと新築移転があったが、近隣であったこともあり、地域性への影響は少ない。</p>
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>運営推進会議を通じて、市の職員や家族のメンバーから地域の情報提供をいただき、実践を通じて得られた、認知症に対する理解や支援の方法の情報提供を行っている。</p>	
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、定期的開催しており、サービスの提供状況について報告や話し合いを行っている。</p>	<p>協力医療機関よりソーシャルワーカーの参加も得ている。情報提供や、医療機関の予防教室に職員が参加する等、サービス向上に活かしている。発言の内容がわかりやすく記録された議事録を閲覧可能としている。</p>
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センターの担当者とは頻繁に連絡をとり、介護保険にかかる情報を提供していただいたり、市主催の説明会には、参加するように努めている。</p>	<p>介護保険の更新時や困難事例への対応について、地域包括支援センター職員や、行政担当者との連絡を密に行っている。運営推進会議には、地域包括支援センター職員の出席を得ている。</p>
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>事業所内研修で身体拘束について研修を行い、身体拘束をしないケアを実践している。ただし、正面玄関口は、行方不明になれるリスクを回避するため、夜間は施錠している。</p>	<p>事業所の方針に則り、また、関連する研修への参加や伝達研修を通じて、職員間の共有認識を図っている。言葉による抑制についても意識を持ち、ミーティング等で確認している。日中の施錠は行われていない。</p>
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>事業所内研修で「高齢者虐待防止法」について研修を行い、事業所内で虐待が起こらないように、また見過ごされないように徹底して注意を払っている。</p>	

福岡県 グループホーム シライシップ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内研修で「成年後見人制度」について研修を行っている。また、日常生活自立支援事業や成年後見制度の利用が必要な対象者には、相談や助言を行っている。	現在、制度を活用している方もおり、毎月担当者が来訪される時には情報を提供したり、代弁者として意見を聞くなどして、これら制度を身近なものとして受け止めている。資料を整備し、必要時には説明が行えるよう準備している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には、入居者と家族等が十分な理解と納得が得られるように、時間をかけて説明している。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に苦情相談窓口を設け、意見、不満や苦情を、管理者や、外部者に表せる機会を設けている。	特に直接の対話を重視され、家族の来訪時や電話でのやり取りが密に行なわれている。その内容は詳細にその日の日報に記録されている。記録に残すことで、職員も必ず目を通し、誰もが同じ情報を持って利用者や家族に対応することが出来るよう取り組んでいる。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を開催し、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。職員からの意見や提案を反映させている。	毎月ミーティングが開催され、夜勤専門者も含め全員出席が基本となっている。やむを得ず出席出来ない職員も必ず会議録を読むことで、周知徹底を図っており、この会議での意見や提案、検討事項が、職員全体のものであるという意識付けがなされていた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績、勤務状況に応じて評価するよう努めている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては、性別、年齢による排除はせず、既存職員に対してはスキルアップの為、研修会に参加できるようにしている。	職員の採用にあたっては、ヘルパー2級以上とする資格要件はあるが、年齢や性別による排除は行わないようにしている。採用後は、専門職としての知識の習得を積極的に促し、毎月の勉強会に加え、外部研修への参加も多い。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	代表者及び管理者は、研修会等に参加し、ミーティングで他の職員へ報告し、周知徹底に努めている。	人権に関する外部研修には、法人代表者や管理者が参加し、内部での伝達を行っている。また、代表者はミーティングにも参加し、コンプライアンスの視点や、社会での出来事を参考にしながら、人権教育、啓発に取り組んでいる。	

福岡県 グループホーム シライシップ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修を定期的に行い、ケアの質を向上するための勉強の機会を確保している。また、中途入職者に対しては、事業所の理念の理解や、適切な介護技術・知識を習得できるようにしている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や市主催の勉強会や研修会に参加して、地域の同業者と意見交換会など、交流を深めるように努めている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人や家族と面談を行い、現在の生活状況や心身の状態、希望や困りごとの把握に努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、家族と面談を行い、困りごと、不安なこと、希望を伺うようにしている		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、本人と家族が必要としている支援を見極め、必要な支援が受けられるように努めている。心身の状況や希望によっては、他サービスの利用も検討するように努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長い人生経験の中で培われた知恵や教訓、料理や手芸などを教えてくださることもあり、暮らしを共にする関係を大切にしている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と一緒に、本人にとって必要な援助を考えるようにしている。毎月一回は、電話にて近況報告を行うとともに、行事も利用者と一緒にできる機会を設けるように努めている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者に関わりのある方々の面会は、家族の承諾を得て、一緒に楽しんでいただき、馴染みの人との関わりが継続して行えるように支援している。	遠方の家族とも連絡を取り合い、関係性が途切れないうちに留意されている。また近くの観光施設へ職員が同行して家族とのふれあいを支援されている。昔からの知り合いの方の面会や、馴染みの美容室の利用についても、家族との連携を図りながら支援を行っている。	

福岡県 グループホーム シライシップ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で、歓談を楽しまれたり、関わり合いが持てるようにしている。他の入居者との関わり合いをもつことが難しい場合は、職員とのコミュニケーションの機会をもつようにしている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の様子を、家族に確認するようにしている。家族の承諾を得て、転居先の施設への面会やお見舞いに伺わせていただいている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通ができる場合は、希望や意向に沿った支援に努めている。意思疎通が困難な場合は、家族の希望・意向や生活歴から本人本位の支援が行えるように努めている。	日々の記録が克明に書かれており、その方の状況が伝わりやすい。昨年より、個人希望表を作成し、職員全体で共有できるよう取り組んでいる。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントや面会時に、本人と家族から生活歴や生活習慣などの情報収集を行い、把握に努めている。また、入居前介護・医療サービ情報把握を行えるように努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの思いや意向に沿って、一日の過ごし方を一緒に考え、現在のできる能力を活かした生活ができるように支援している。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向や要望を伺い、話し合いを行ったうえで、介護計画を作成している。	入居者の視点による介護計画が作成されており、理解しやすい内容となっている。到達可能な目標設定であり、適切なモニタリング・評価に繋がっている。担当者会議には夜勤担当者も入り、一日の流れの中で検討され、また計画作成者のモニタリングも表記されている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、バイタルチェック表、排泄チェック表、等を活用して記録を行い、職員間で申し送りを行い、情報の共有を行っている。		

福岡県 グループホーム シライシップ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な体調不良の受診の付き添いや、外出希望時の同行等、利用者や家族のその時々状況に応じて支援を行っている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者にとって地域の一員であるという気持ちを持ち続けられる様、イベント等に参加するよう支援している。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望を伺い、協力医療機関の往診、あるいは入居前のかかりつけ医への受診をしていただいている。また、往診時・受診時には、適切な医療が受けられるように、連携を図っている。	協力医の往診や、これまでのかかりつけ医への受診の際には、できるだけ日常生活を把握している職員が付き添い、適切な情報を提供に努めている。また診察内容や注意事項、処方薬の変更等は詳細に記録され、職員間での周知を図っている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日常の健康管理やかかりつけ医との連携を行っている。申し送り時には、体調の把握を行い、必要時には主治医に相談を行っている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に情報提供を行い、入院中も担当看護師や相談員に様子を伺うなど、医療機関との連携を図っている。また、退院時には、円滑に受け入れができるように、医療機関と連携を図っている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者や家族に、重度化した場合や終末期の意向を伺うように努めている。	入居時に、重度化や終末期のあり方について、事業所の方針を説明している。本人、家族の意向を踏まえ、主治医、協力医、訪問看護師等、医療関係者との連携を図りながら、日々の支援を行っている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応マニュアルに従い、緊急時に職員が落ち着いて適切に対応ができるようにしている。		

福岡県 グループホーム シライシップ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	所轄消防署の立会いのもと、消防訓練を実施しており、利用者の避難誘導の模擬訓練を行っている。また、防災対策マニュアルを作成して、職員に周知している。	事業所移転により、これまでの地域連携を活かした災害対策を踏まえ、近隣への協力依頼を行っている。消防署の立会いによる訓練を実施し、夜間訓練も予定されている。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全体会議や研修で、利用者に対する言葉遣いや対応について話し合い、尊敬の気持ちを込めた言葉遣い・対応を心がけて行っている。	その方にとって一番馴染みやすい呼び方として、姓ではなく名前を希望される方も多い。排泄ケアや入浴の際には特に留意し、さりげない声かけや対応を心がけている。個人の書類は施錠して収納し、取り扱いには十分に配慮している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のその時々をの思いを傾聴しながら、また、本人のわかる力に合わせて、自分の意思で自己決定できるように支援している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個々の生活のペースを大切にしながら援助を行っている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族の意向に沿って、訪問理美容の実施を行っている。また、馴染みの理美容店がある方は希望時に送迎等の支援を行っている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の個々のできる力に合わせて、食事の準備や後片付け、配膳や下膳、食器洗いのお手伝いを職員と一緒にしている。また、簡単な調理の下ごしらえを行っていたいしている。	献立は、日常の中で嗜好を探り、旬のものを取り入れながら作成されている。「いただきます」「ごちそうさまでした」の挨拶は当番制となっており、生活のリズムを意識している。職員も共に食卓を囲み、同じ食事を摂っている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの必要量が確保できるように努めている。また、体調に合わせて食事形態を変更したり、補食でおぎなう等の工夫をしている。		

福岡県 グループホーム シライシップ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じて、口腔ケアの支援を行っている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄のパターン、習慣を把握し、できる限りトイレでの排泄ができるように支援している。	入居時に、排泄に関する情報を収集・分析し、日常のリズムを恒常化する生活リハビリを重視しながら、適宜なトイレ誘導や体操が実行され、排泄の自立に結び付けている。夜間も含め、個別のニーズや状況に配慮している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排便の間隔を把握し、嚥下体操等を行い、身体を動かす機会を確保している。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調と入浴間隔をみて入浴の誘いを行っている。入浴したいとのご希望があれば、できる限り希望に沿うようにしている。	一日おきの基本スケジュールはあるが、毎日入浴準備を行い、希望や状況に柔軟な対応が行われている。寒気時には、脱衣所も温度差がないよう保温され、快適な環境に注意が行き届いていた。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況に応じて、休息をとっていただいたり、睡眠をとっていただいている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更・中止・追加があった場合は、その旨を職員に周知し、その後の体調の変化に留意し、普段と変わった様子があれば、速やかに主治医に報告するようにしている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の生活歴や生活習慣、趣味を伺い、現在のできる力に合わせて自立支援を行い、その方にあった生活の実現に向けて支援している。		

福岡県 グループホーム シライシツブ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>職員が同行しての散歩や、利用者の日用品の買物など、戸外に出かけられるように支援している。また、家族に協力を依頼して、家族との外出の機会が得られるように支援している。</p>	<p>ホームの周辺は、商店街や市場、スーパー等が集積しており、日用品や個人の買い物など、散歩も兼ねて日常的に外出している。また、家族と共に、近隣の観光や外食を楽しめるよう職員同行で外出支援が行われていた。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>事業所内の金庫で預っている。ただし、買物に出かけた際は、本人の意向と、できる力に合わせて、お金の支払い等を行っている。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>利用者からの希望があれば、電話を利用できるように支援している。また、遠方に住まれている家族との電話や手紙のやり取りが行えるように支援している。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の空間には、移動が行いやすい環境を心がけており、無駄なものも置かず、落ち着いて心地良く過ごしていただけるようにしている。</p>	<p>これまでの民家を改造した家庭的な空間から、昨年、新築移転されており、趣は異なるが、家庭的な雰囲気は継承されている。天井の高い、開放的な空間には、スタンドグラスも用いられ、2階部分の一角には、事務室や休憩室も設けられている。食卓の下の足先部分には、ホットカーペットが設置されている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ひとりでゆっくり過ごしたいときは、テラスで過ごしたり、自分の思いでリラックスできるように工夫している。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、使い慣れたものや大切なものを持ちこんでいただき、できるだけ自宅に近い環境の中で、安心して生活できるようにしている。</p>	<p>各居室の壁の色とカーテンの色合いを統一され、落ち着いた雰囲気の居室となっている。家族の写真を持ってこられたり、好みの布団カバーやぬいぐるみが置かれている。入居者の方々により、居室を我が家のように案内していただいた。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居者一人ひとりのできる力・わかる力を活かして、本人が自分で行っていただけるように、環境や条件を整える支援を心がけている。自分の居室がわからない方には、目印を付ける工夫をしている。</p>		